



株式会社サンノウ興業  
代表取締役：佐々木浩二

## 掘削から残土処理まで完結することで 同業他社との差別化を実現

株式会社サンノウ興業は、平成12年設立の比較的若い会社ながら、トラックの保有台数・重機の保有台数ともに、残土処理業では都内有数の規模を誇る。起業から現在までともに会社経営を行う代表取締役・佐々木浩二氏と弟の専務取締役・浩氏を訪ねた。

現在の業務は残土処理業が会社全体の7割を占め、他に現場での掘削・根伐り工事など土木工事も行っています。仕事は建設会社から直接依頼が来ることや、とびの会社や土木工事の会社を通して来ることもあります。仕事場は都内と神奈川県内のマンションの新築工事現場がほとんどです。また、他の業者にトラックや、重機類にオペレーターを付けて貸し出すという業務も行っています。

マンション新築工事を中心とした残土処理業がメインの業務  
——会社創業の経緯と、現在の業務内容をお教えください。

20代の頃に私と弟でダンプカーを1台ずつ手に入れて、仕事を始めたのがこの会社の始まりです。最初の頃は残土処理だけでなく、ダンプカーでできる仕事は何でも引き受けました。事業を少しでも早く軌道に乗せたいと思い、3〜4年は弟と二人三脚で休みも惜しんで働きました。収入は給料よりも、トラック購入などの事業資金にあてました。5年目を過ぎた頃からひとりずつドライバーと車両を増やし始め、いまに至っています。

# C O N T E N T S



03 - Our Pride  
株式会社サンノウ興業  
代表取締役 佐々木 浩二

06 特集1  
小型トラックの進化を担う  
**新型キャンター誕生**

08 特集2  
この夏食べたい！  
**SA・PA「冷し麺」**

10 - 街角クリニック Vol.4  
戦国武将たちの診療カルテ

12 - ゆらりバス時間 Vol.4  
街の顔 路線バスカラーリング

13 - トリビアコラム 第14回  
納豆のトリビア

14 - Front's Eyes  
アイドリング運転の頻度が高い  
「キャンター」「ローザ」の  
DUONIC用クラッチダンパーについて

15 - 一度は食べたい! 漁港めし Vol.4  
読谷村漁業協同組合

From Editors

**FUSO**  
magazine No.70  
2019 Jul. Aug



表紙Photo：CANTER撮影用特別仕様車

©FUSO magazine 本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断複写、転載を禁じます



いわれましたが、現場から残土置き場までの距離が短ければ、トラックも効率的に使えてコストダウンになります。当社の仕事は都内が一番多いので、私としては成功するだろうと考えて、京浜島を開業しました。都内には残土を受け入れる場所が少なく同業者も利用しず、いまでは当社の強みになっています。

実は解体の仕事をやらないかという話もあったのですが、私も専務もダンプと土をいじる仕事が好きなので、手を広げず今後も残土処理に特化していくつもりです。今のお客様を大切に堅実に仕事をしながら、新しいお客様を増やしたいと考えています。

### GPSやモニターを駆使して 車両や離れた営業所を管理

——トラックの配車や運行管理などは、どのように行っているのでしょうか？

会社の経営と営業は私が担当していますが、専務が配車や運行管理、人事などを担当しています。本社の1階には各営業所の車両駐機場と、残土置き場を全て映し出しているモニターがあり、各置き場の残土量や碎石の残量を管理することができます。各営業所の状況を把握して、それぞれに指示を出しています。

トラックには全車GPSを搭載していますので、パソコンの画面でどこにいるのか確認できます。残土の輸送に関しては、お客様からトラックが足りなくなったからすぐ回してくれ、という突発的なオーダーもよくあるのですが、そうしたときにも画面を見て、現場に一番近いトラックを手配することが可能です。この業界では、同業他社はライバルであると同時に仲間という側面もあり、同業者からの依頼も多いので、横の繋がりは大切にしています。また、トラックの動線を管理していて、気になることがあるとその都度指示を与えています。1日に1000台を超える配車が必要なこともあり、自社のトラックで足りない時は、他社から借りて配車を組み立てることもあるのです。

——三菱ふそうのお付き合いのきっかけをお教えてください。

以前、中古のキャタピラーの重機を購入した際に、キャタピラーのメンテナンスの担当から三菱ふそうを紹介してもらいました。それが平成16年くらいで、それからの付き合いです。13年前に購入したトラックを重機の回送車に使っていますが、いまだに現役で走っています。故障が少ないのはいいですね、オイル交換になかなか行けないときにも、三菱ふそうの担当が交換に来てくれるので助かっています。



### 重機作業からダンプ輸送、残土の 処理まで一連でできるのが強み

——残土処理業としては後発かと思いますが、どのような経営方針をお持ちですか？

創業当時から現在まで、「依頼された仕事は100%断らない」をモットーにしています。その一方で、「会社・仕事の体制を作る」ことに全神経を集中させて、重機やトラックの種類と台数を充実させ、自社の残土置き場を所有することを目標としました。いまでは重機55機、トラックも小型・中型・大型が64台、残土置き場も本社を含め4カ所で営業しています。

同業他社は、小型専門、大型専門というところが多く、積載量の異なるトラックや重機を、多数保有しているところは都内にはあまりありません。現場の大きさに関わらず、重機での掘削から残土処理まで、一連の作業を自社のみで完結できることで、他社との差別化を図っています。また、これにより経費も削減できます。

京浜島の残土置き場は平成29年に開業しました。都内の土地は高いですから、同業者からは大丈夫なのか、採算は取れるのかと



### 株式会社サンノウ興業

大田区山王にある本社の他、都内に京浜島事業所、横浜に青葉営業所、千葉に木更津営業所を置く。各施設には残土置き場を有し、碎石販売や同業他社からの残土受け入れもを行っている。

東京都大田区  
代表取締役：佐々木浩二  
社員数：100名  
会社設立：平成12年  
保有車両数：68台